

林寺地藏菩薩立像二軀を展示している。毘沙門天立像は、後補の修理により像容が損われた感があり、また、地藏菩薩立像は全身の損傷が激しいが、いずれも平安時代後期の仏像と考えられている。鶴林寺銅造聖観音菩薩立像（あいたた観音／重文）に代表されるように、この地域には、すでによく知られた仏像も多数あり、新しくその価値が知れたものについては、このような展示を機会に紹介していききたい。次に、鶴林寺の獅子頭であるが、中世には聖霊会に使われていたもので、同寺の聖徳太子信仰の華やかさを示す資料であり、南北朝時代のものと考える。さらに、その頃の神仏習合思想を示す資料として、鶴林寺の懸仏がある。応永四年（一三九七）建立の現在の本堂（国宝）以前のものと考えられ、一四世紀の鶴林寺を考える上で興味深い。

今回の展示では、中世の仏画の占める割合が大きい。軸装のものは、ふだんは巻いて保管され、詳しく調べられていないことが多い。このため、最近の確認調査により、多くの資料が見出された。長祿四年（一四六〇）に「河南条宿村西真」が修理に関わった鶴林寺涅槃図、応永二年（一三九五）の起請文が知れる円満寺釈迦十六善神像、軸木銘から元応元年（一三一九）の制作に関わる詳細が判明した竜泉寺当麻曼荼羅図など、史料が少ない時代のさまざまなことが銘文からわかる場合もある。また、今回展示している釈迦十六善神像、薬師十二神将像、阿弥陀来迎図は、一三世紀から一四世紀のものも多く、鎌倉時代後半から、浄土信仰を中心とした多くの仏画が制作され、信仰されていたことがわかる。その他、十輪寺不動明王二童子像、円満寺愛染明王像などの密教画も存在する。今回ほとんど展示していないが、この地域には、宗祖や開山などの事蹟を描き教化に使われた、掛幅形式の伝絵が数多く存在する。鶴林寺聖徳太子絵伝（重文）や教信一生絵などが知られるが、神社では、天満神社天神曼荼羅図がそのひとつにあげられよう。

工芸品として、鶴林寺の朱漆塗机と朱漆塗礼盤を展示している。同寺には聖霊会や寺院装飾のため、中世の漆芸品が多数伝わっている。朱漆塗机が高砂城主梶原景秀の寄進によるなど、在地の有力者と中世寺院の関わりを示す資料もある。報恩寺や鶴林寺の大般若経寄進にも、在地有力者が関わっていたことがわかる。近世の資料になると、米田出身で宮本武蔵の養子として有名な宮本伊織が、泊神社や米田神社に寄進した三十六歌仙扁額や鰐口がある。米田を遠く離れ豊州小倉で名を成した伊織が、故郷を思慕して寄進したと考えられている。さらに、近代

の美術資料として、橋本関雪の放生図絵馬を展示している。この絵馬は、近世高砂地域の富有層と、そこに逗留した文人墨客との関わりを残しているように感じる。

神吉八幡神社の祭礼絵巻は、江戸時代後期の内陸部の祭礼のようすを詳しく表した資料である。播磨灘沿岸は、熱狂的な秋祭りが行われている地域として知られている。その他、この地域では、さまざまな民俗行事が繰り返されているが、その記録が伝わっているものは少なく、民俗行事の継承とともにその記録保存が望まれる。

古文書は文字資料であり、歴史を知る上で最も重要な資料である。この地域では、報恩寺や鶴林寺をはじめ、希少な中世文書も数多く残っている。さらに、近世、近代の古文書は膨大な数にのぼる。これらの史料は、各市町の教育委員会をはじめ、関係者により整理が進められているが、失われているものも少なくない。本展では、報恩寺文書の中から、南北朝時代から室町時代の播磨守護職であった赤松氏が、寺領安堵や勧進に関わった文書を紹介し、鶴林寺文書からは、在地有力者塩田氏からの大般若経寄進状、池田勝正と織田信長から受けた禁制文書、羽柴秀吉から寺領の石高を減じられた文書を展示している。いずれも、中世寺院とその土地の権力者との関わりを示し、たいへん興味深い史料である。また、加古新村の村方万事儀定書は、現在の稲美町域を中心に繰り返り広げられた、新田開発に関わるものである。稲美町をはじめ各地に残る、数多くの近世村方文書は、江戸時代の民衆の動向を知る上で、たいへん重要なものである。

以上、今回の展示を概説してきたが、ここに紹介した資料は、この地域に残る先人の文化遺産のうちの一部に過ぎない。さらに優れた資料が、数多く存在することは説明するまでもあるまい。また、本展は、新しく確認されたものや、日頃は見る機会の少ない文化財を中心としている。このため、この地域の大きな特色でもある聖徳太子や沙弥教信らの人物や、民衆が建立した石造美術など、中世の信仰についてあまり紹介できなかった。このテーマは、いずれ別の機会に取り上げたいと考えている。

最後に、本展開催にあたりご協力いただきました皆さまをはじめ、先人たちの文化遺産の保存に関わる、すべての方々の日頃の活動に対しまして厚く感謝するとともに敬意を表します。